医学部合格を目指した勉強会
多くの進学校の先生方が参加をする
医学部入試研究会の秘密に迫る

東京・大阪・名古屋など全国に8校舎（新規開校2校舎を含む）の直営校舎を展開している医学部受験予備校富士学院では、高校の進路担当の先生方をお招きし、医学部入試についての勉強会“医学部入試研究会”を各校舎単位で開催している。今日はその内容の一部をレポートしてみた。

富士学院が行う医学部入試研究会とは

去る8月2日(木)に、関東地区の進学校の先生方を対象に東京校主催の“医学部入試研究会”が開催された。講師は富士学院統括本部長の村田慎一氏が務め、医学部入試についての現状や今後の展望などの話から医学部の最新入試情報や医学部合格のポイント、面接試験の捉え方などの解説や生徒に対する意識付けやモチベーションの保ち方まで、多岐にわたり行われた。

２０１８年度入試の総括においては、医学部全体の総定員が十数年ぶりに前年度を下回った理由や、受験者数の減少傾向について、国公立医学部と私立医学部では若干原因が違う点、２０１８年問題や景気動向、私立医学部において二人が受験する大学数の変化など、様々な視点を交え解説が行われた。

次に、２０１９年度医学部入試全体の変更点についての詳細を紹介。また、医学部入試の現状について、模試データを活用し、偏差値だけでは測れない医学部入試の難しさを他学部のデータと比較する形で検証。さらに、国公立医学部・私立医学部の成績開示データをみながら、面接や小論文の重要性の根拠を示し解説を行った。

最後に、この研究会の締めくくりとして「合格率を上げるためには」というテーマで、富士学院の事例を紹介し、富士学院が選抜制度を導入せずに、医師になりたいと思う生徒全員受け入れながら、毎年、5割以上の医学部進学者を出し続けてきた様々な要因を解説した。

また、その後に行われた懇親会では活発な意見交換などが行われ、参加した先生方からは、非常に有意義な勉強会であったという声が多く挙がった。

“医学部入試研究会”に参加した広尾学園の吉江勝仁先生は「国公立・私立の現在の医学部入試全体を詳細に解説頂き、学科試験の各大学の違いや、面接・小論文の重要性もデータを基に根拠を示して頂き、一つひとつの情報が現場への指導に落とし込むことができる素晴らしいものでした。これだけ医学部に特化した解説は他で聞くことができず、また、ここまで情報をさらけ出してくださったことに感謝致します。懇親会もとても有意義な時間を過ごすことができました」と語り、富士学院が主催する“医学部入試研究会”の内容や質の高さが伺えた。

これに対し解説を行った村田本部長は「東京校に限らず各校舎共に多くの先生方にお集まり頂き、大変感謝をしています。またお集まり頂いた先生方との懇談を通して先生方の医学部入試への関心の高さと正しい情報を常に求めている姿を拝見し、私達の役割の大きさも含め、改めて身の引き締まる思いを強く持ちました」また「東京の入試研究会にはゲストで大学の事務局の先生方も参加をされ、大学と高校をつないでいくという役割も果たすことができ、とても有意義な研究会になりました」と語った。

また田園調布学園の兼子尚美先生は、大学の事務局の先生方が参加をされた懇親会について「懇親会では医学部の先生方から現場の状況を詳しくうかがえ、生徒への指導の指針の参考となる貴重な機会となりました。ありがとうございました」と感謝を語った。

医学部入試研究会から校内入試セミナーへ

現在富士学院ではこういった「医学部入試研究会」を、各校舎単位で行っており、参加高校は約50校を数える。またこの入試研究会をきっかけとし、高校からの依頼により、直接富士学院が高校に出向き、生徒や保護者、また教職員に対し校内セミナーを行うケースも増えており、現時点で約20校の高校で校内セミナーを行っている。その一つの高校が、福岡にある福岡大学附属大濠高校。進路指導主任山田幸次郎先生は医学部入試研究会について「教員もその実態を把握していないことが多い医学部入試。私大二次試験の日程の妙、配点の差異、面接・小論文の重要性、どれをとっても分かり易く、そのまま職員や問い合わせに来る生徒・保護者に提示できる内容でした。現場としては有難く、そして勉強にもなりました。徹底された資料の優位性には敬服するしかありません。研究会の実体験がそのまま10月の校内セミナーへの布石となりました」と語り、その校内医学部セミナーについては「高校一年生、二年生の医学部志望者70名を対象に10月4日（中間考査の最終日）に実施。医学部入試の厳しさが伝わったことは確実で、参加者の感想は今後の勉強への意気込みが感じられるものが大半を占めました。講師である富士学院の先生の手術体験を目の当たりにし、難関突破に向け更に心構えを確固たるものにできたと、充実した内容に感謝しています」と語った。

満足度の高い校内セミナー

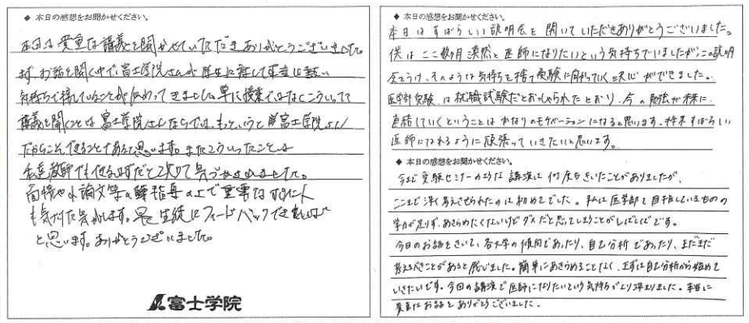
同じく医学部入試研究会に参加し、校内セミナーを実施した、中高一貫校の暁星高校の園田陽一先生は、「この会に参加したことがきっかけで校内セミナーをお願いする事になり、セミナーでは高校生向けに最新の医学部入試情報を説明していただきました。センター試験と２次試験の配点だけで出願校を決定してしまい失敗した話などをうかがい、とても参考になりました。また面接、小論文の大切さについてのお話は生徒たちにも響いたと思います。さらには医師とはどのような職業であり、目の前の患者にどのように接すべきなのかを、実体験を交えてお話ししていただき、生徒たちのモチベーションも上がったと思います。ありがとうございました。」と語り、いずれの高校の先生方も大変満足していた。

生徒だけでなく先生も積極的に参加

また、もう一つ事例を紹介すると岡山市にある中高一貫校の岡山高校で行われた校内セミナーでは、医学部を目指す中学一年生から高校三年生の生徒の他、保護者40名、教職員40名が参加をする大規模なセミナーを実施。岡山高校の守安裕之先生は「参加者からは生徒も保護者も一度立ち止まって考える良い機会となり、次へのやる気アップに繋がった、という意見が多くあり、教員からは以前行った他の講演会よりも数倍良かったとの声も複数ありました」と語ってくれた。

前出の田園調布学園でも、中等部、高等部の保護者会を利用した校内セミナーを行い、教職員を含め120名近い参加者があった。「最近では学校の教職員の先生方が多く参加する校内セミナーが増えている」と村田本部長は語る。その上で「先生方が注目をしているのは、富士学院が成績の良い生徒だけを取る“選抜制”を行わないで、医学部医学科に実数で半数以上の生徒を合格させているという事実だと思います。正しい入試情報は当然必要ですが、その情報をどう分析し、生徒一人ひとりにどう生かしていくのか、ということが大事であり、このことについての質問が一番多くあります」と村田本部長は語る。富士学院はこれからも大学と高校の良いつなぎ役として様々な役割を担うと共に、医学部を目指す多くの生徒達を“より良い方向へと導いていく”そういう確固たる存在になっていくのであろう。

本人の移植手術の体験を語る村田本部長


◆ 本日の感想をお聞かせください。
本日は貴重な講義を聞かせていただきありがとうございました。
お話を聞くにつれ富士学院さんが真剣に誠実に生徒と向かいあっていらっしゃる事を改めてできましたし、早く授業くらいはこういった講義を聞かせる富士学院さんならではだ、もっと多くの人が富士学院さんにたどりつけるようにしたいなと思います。また、こういったことも各校舎単位で行える時代だと改めて気づかされました。
高校や大学の教育指導者の上で重要な役割の人も気付いた気がします。是非生徒にスーパーヘルプ役を担ってもらいたいと思います。ありがとうございました。
富士学院

◆ 本日の感想をお聞かせください。
本日はすばらしい説明会を開いていただきありがとうございました。
僕はここ数年漠然と医師になりたいという気持ちでいましたがこの説明会をうけ、そのような気持ちを持って受験に向かう良い機会ができました。
医学部受験は就職試験だとおっしゃられたとおり、今の勉強が将来に直結していくということはやはりモチベーションにはなる思います。将来すばらしい医師になれるように頑張っていきたいと思います。
◆ 本日の感想をお聞かせください。
今日の実際にセミナーの内容は、講演会に何度かきいたことがありましたが、ここまで深く考えさせられたのは初めてでした。私は医学部と自称しているものの学力が足りず、あきらめにくいけどダメだと思っていることがしばしばです。今日のお話をきいて、各大学の傾向とあたり、自己分析とあたり、また、まだ勉強不足であると感じました。簡単にあきらめることなく、まずは自己分析から始めていきたいです。今日の講演で医師になりたいという気持ちがより深まりました。本日に集中お話をありがとうございました。

校内セミナーに参加をした高校の進路指導担当者（左）と生徒たち（右）のアンケートの一部

生徒との懇談の中で“医師になる”という「自覚」や「覚悟」を促していく

多くの生徒・保護者、教職員が参加をした校内セミナー